

## アセタゾラミド負荷脳血流定量シンチグラフィ検査を受けられる方へ

### 〈アセタゾラミド負荷脳血流定量シンチグラフィとは〉

脳血流シンチグラフィは少量の放射線を含んだ薬剤を静脈内に投与し、脳内の血流分布を調べる検査です。アセタゾラミド(ダイアモックス)という血管を拡張させる薬剤を投与し、脳の血流を増加させた状態で検査を行います。薬剤の種類や検査方法により、<sup>123</sup>I-IMP負荷検査、<sup>123</sup>I-QSPECT検査、<sup>99m</sup>Tc-ECD-RVR検査があります。

### 〈検査方法〉

①

検査台に横になり、右上腕の静脈に薬剤を投与するために点滴ラインを確保します。

②

検査中に頭部が動かないように頭部を固定した状態で検査を行います。検査中の光の刺激を遮断するために目隠しをします。検査中は状態が変化ないかを確認するために定期的に血圧を測定します。

③

検査開始と同時に右手の点滴ラインから放射性薬剤を投与し、20分後にダイアモックスを1分以上かけて静脈内にゆっくり投与します。

④

30分後に再度放射性薬剤を点滴ラインから投与し、約30分撮像します。撮像時間は全部で約1時間程度です。

### ・アセタゾラミド負荷とは

アセタゾラミド(acetazolamide: 商品名 ダイアモックス)は、血管を拡張させる薬剤で、①緑内障(眼圧低下作用を有する)、②てんかん(脳のCO<sub>2</sub>濃度の局所的増大により、脳の異常興奮を抑制する)、③肺気腫による呼吸性アシドーシスの改善、④メニエル病及びメニエル症候群に対して症状を緩和する目的で使用されます。本来適用外ですが、脳の血管を拡張させる作用もあるため、脳循環予備能を調べる目的にも用いられます。脳以外の血管も拡張するため、下記のような症状が現れる場合があります。

四肢(または全身)の異常感覚(主にしびれ感)、顔面のほてり、紅潮、全身倦怠感、不快感、動悸、お腹がごろごろする、多尿、頭痛  
これらの症状は投与数分後から起こることが多く、数時間で改善しますので心配ありません。

脱水予防のためにも検査後はしっかりと水分を摂取してください。(水分制限がある方は医師の指示に従ってください。)

また、この薬剤には排尿を促す作用がありますので、検査前には十分に排尿していただきますが、検査中我慢できない場合は担当者にお知らせください。まれに脳梗塞等の症状の増悪あるいは再発、非常にまれですが、急性心不全、呼吸困難、肺水腫、発疹などの重篤な副作用(死亡例を含む)が報告されています。1994年から2014年までの20年間に8件の重篤な副作用報告が発症し、うち6件の死亡が報告されています。

基本的にこのような事が起こることが推測される患者様には、この検査は行っていませんが、もしこのような症状が見られた場合には、適切な処置もしくは治療を行います。尚、本検査により上記のような重篤な健康被害が発生した場合でも、医薬品副作用被害救済制度による救済は得られませんので、ご了承ください。

検査終了後、体調の変化がないか確認するためにしばらく院内で待機していただき、問題なければ帰宅していただきます。

・その他の質問に対して

検査前後の体調について変化がある場合は受診されている担当医にご相談ください。

説明年月日                      年    月    日

---

担当医署名

---

## アセタゾラミド負荷脳血流定量シンチグラフィ検査同意書

国立病院機構佐賀病院院長殿

担当医師名

---

私は 年 月 日に担当医師よりアセタゾラミド負荷脳血流定量シンチグラフィ検査の方法内容注意事項について説明を受け、検査を受けることに同意し、同検査の実施を希望いたします。

患者署名

---

(何らかの理由でご本人が署名できない場合は、ご親族あるいは代理人の署名をお願いします。)

代理人署名

〈続柄: 〉

---